

経済レポート

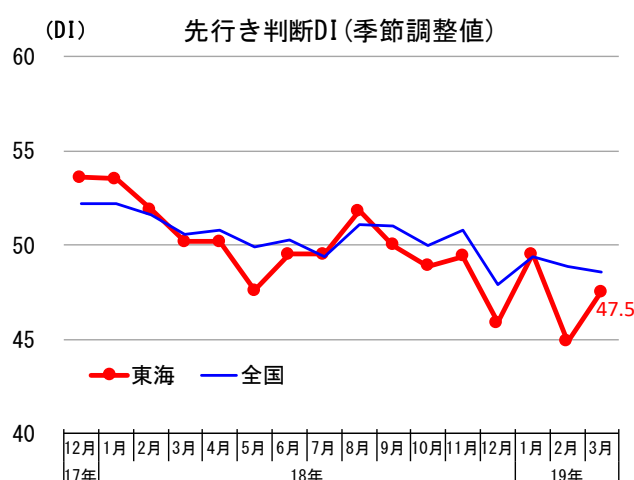
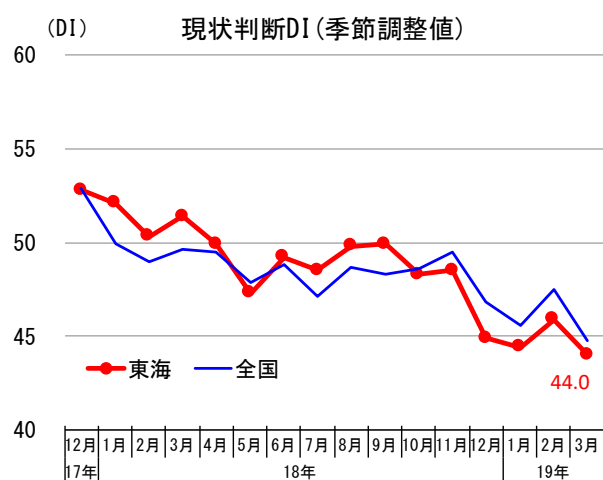
景気ウォッチャー調査(東海地区:2019年3月)

～ 現状判断DIは2ヶ月ぶりに低下～

調査部 主任研究員 塚田裕昭

- 4月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の3月の

**現状判断DI(季節調整値)は、前月差-1.9ポイントの44.0と2ヶ月ぶりに低下した。
先行き判断DI(季節調整値)は、前月差+2.6ポイントの47.5と2ヶ月ぶりに上昇した。**



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

弱い動きが見られる。先行きについては、改元や消費税率引き上げ前の駆け込み需要への期待が見られる一方、一部商品の値上げによる消費抑制や海外情勢などが懸念されている。

とまとめ、基調判断を据え置いた。

(前月のまとめ)

「弱い動きが見られる。先行きについては、消費税率引き上げ前の駆け込み需要への期待が見られる一方、一部商品の値上げによる消費抑制や海外情勢などが懸念されている。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

このところ回復に弱さがみられる。先行きについては、海外情勢等に対する懸念もある一方、改元や大型連休等への期待がみられる。

とまとめている。

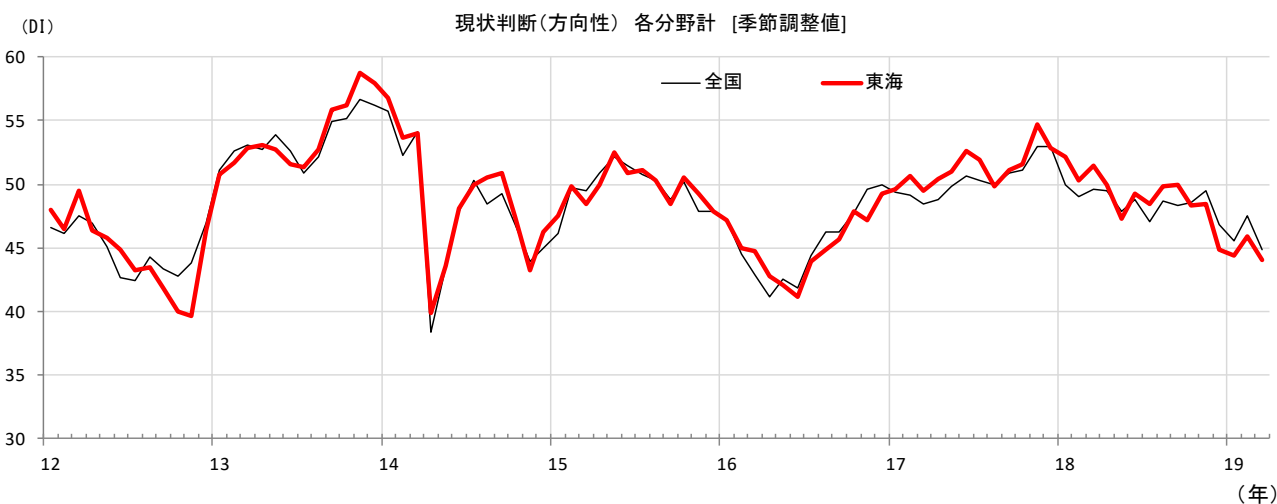
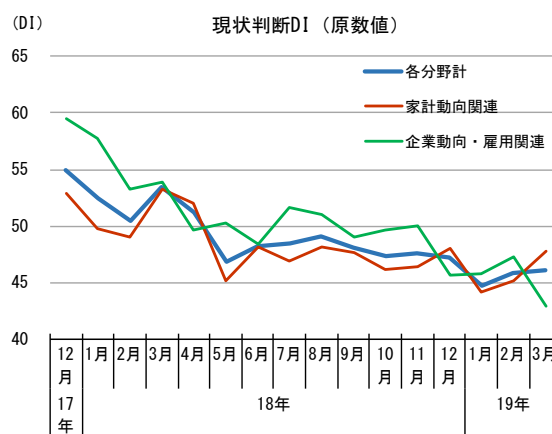
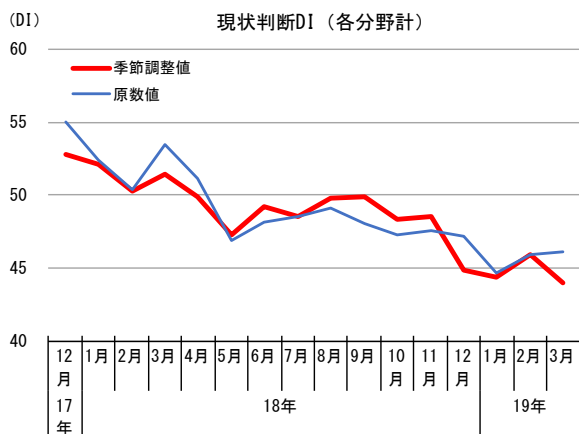
(前月のまとめ)

「緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、海外情勢等に対する懸念もある一方、改元や大型連休等への期待がみられる。」

1. 景気の現状判断（3ヶ月前との比較、方向性）

（1）DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI¹（季節調整値）は、前月差-1.9ポイントの44.0と2ヶ月前ぶりに低下した。一方、原数値では、前月差+0.2ポイントの46.1と2ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を11ヶ月連続で下回った。3月は年度末ということもあって改善を指摘する声があったが、客単価の低下、原材料費の上昇による収益の悪化がDIの低下につながった。
- 現状判断の原数値の動きを部門別に見ると、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同+2.7ポイントの47.8と2ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を11ヶ月連続で下回った。一方、企業動向関連と雇用関連からなるDI²は、同-4.4ポイントの42.9と低下し、横ばいを示す50を4ヶ月連続で下回った。



¹ 本調査のアンケート・サンプル総数は227、うち家計関連150、企業・雇用関連77。以下、先行き判断、水準についても同様。

² 企業動向関連と雇用関連からなるDI（原数値）は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】

- 3月は年度末ということもあって、季節要因による改善を指摘する声が散見された。インバウンドも復調してきたようだ。

○	乗用車販売店(経営者)	決算月ということもあり、客の動きも良い。購買意欲もこの時期は高い。
○	美容室(経営者)	卒業式シーズンというのもあって、急ぎよ来店した客も多かったので、いつもよりは少し売上があったような気がする。
□	百貨店(計画担当)	高額品は引き続き動きが悪くない。また、インバウンド消費も、2月以降は好調な状況が続いている。
□	乗用車販売店(従業員)	新車のカーディーラーは、決算になるとやはりたくさん売れる。なおかつ10月の消費税引上げの問題があるので、本来であればもう少し売れるのかという予測をしていたが、思ったほど売上が伸びていないので、景気は下向きなのかもしれないと思う。
□	旅行代理店(経営者)	例年暖かくなると客が動き出し受注が増えるが、今年は例年より若干少ない。

- 客単価の低下を指摘する声が多く、顧客の節約志向は根強いようだ。

□	スーパー(店長)	この1か月、来客数は増えているが客単価は下落している。ぜいたく品やし好品の購買は控えているような感じがする。
▲	一般小売店[酒類](経営者)	食事中心の店で、飲物を注文しない客が増えている。客単価が上がらない傾向が非常に強くなってきている。
▲	衣料品専門店(経営者)	来客数は変わらないが、客単価が下がっている分、売上が落ちている。目先を変えるために新規メーカーを取り入れても、以前のように目新しいと買ってくれる客が少なくなった。

【企業動向関連】

- 原材料費の上昇などコストアップにより、収益的には厳しい模様だ。

▲	食料品製造業(経営企画担当)	原材料費の高騰により収益が悪化している。先行きにも明るい兆しは感じられない。
▲	パルプ・紙・紙加工品製造業(顧問)	原材料や運賃等の値上げがあり、業績は余り良くない。

【雇用関連】

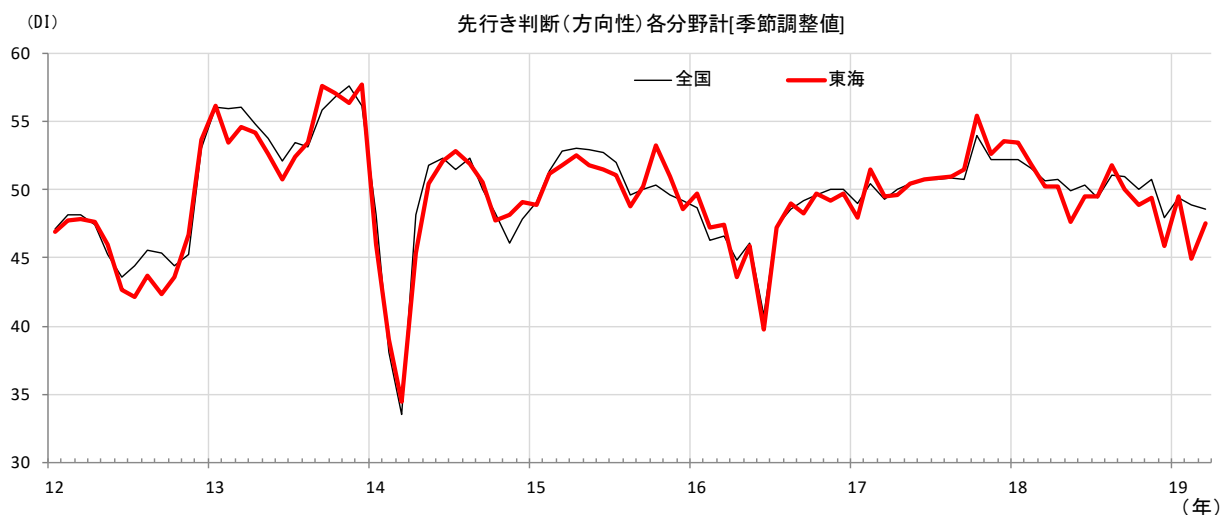
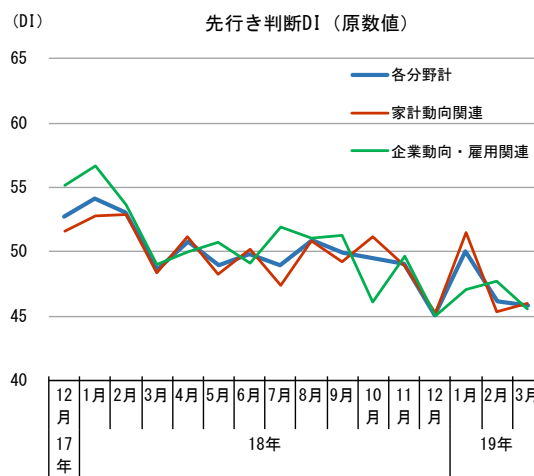
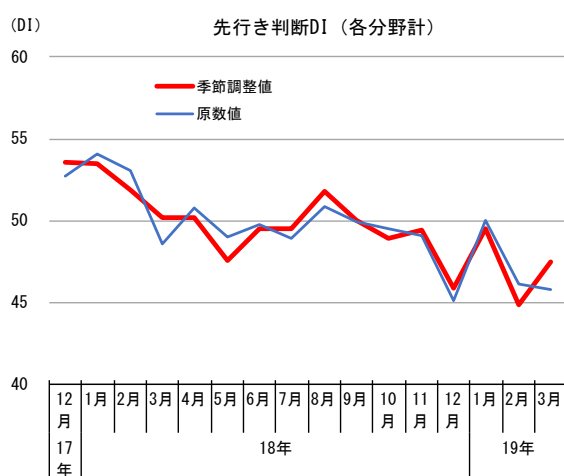
- 求人は高水準横ばいだが、伸びは一服しているとの声もある。

□	人材派遣会社(企画統括)	新規求人数は高い水準で横ばいの状況である。
□	職業安定所(所長)	製造業の求人が力強さを欠いており、求人数も採用数も正社員が伸びていない。中国の景気減速等により、先行きを心配する声を聞くようになった。

2. 景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

（1）DIの動向

- 2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI（各分野計：季節調整値）は、前月差+2.6ポイントの47.5と2ヶ月ぶりに上昇した。一方、原数値では、前月差-0.3ポイントの45.8と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。改元や消費税率引き上げ前の駆け込み需要への期待が見られる一方、海外情勢の不確実性や一部商品の値上げによる消費抑制などが懸念されている。
- 先行き判断の原数値の動きを部門別に見ると、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同+0.7ポイントの46.0と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同-2.2ポイントの45.5と3ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を6ヶ月連続で下回った。



(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなる、○:やや良くなる、□:変わらない、▲:やや悪くなる、×:悪くなる

【家計動向関連】

- 改元、大型連休、消費税率引き上げ前の駆け込みに期待する声が多くみられる。

○	百貨店(総務担当)	改元や皇太子殿下の御即位でお祝いムードとなり、消費ムードも明るく、また、10連休前の消費需要も引き続き高いものと想定される。ただし、商品搬出入での物流面の混乱が起こらないか懸念されるところである。
○	家電量販店(店員)	消費税引上げ前の需要増でにぎわうのではないかと見込む。下見客が増えているようである。

- 一方、各種値上げの影響を懸念するコメントも散見される。

□	スーパー(店長)	食品業界各社の値上げの実施により、家庭にはかなりの負担が掛かってくると感じる。客単価は上がるかもしれないが、買上点数は減少傾向に向かう。
□	スーパー(ブロック長)	ガソリン価格の高騰や数々の食料品の値上がりがあり、良い材料が見当たらない。
▲	旅行代理店(営業担当)	4月からの物の値上げで、消費は落ちると思われる。余暇に充てていた金を生活費に回したりして、旅行者や旅行計画が減少するのを心配している。旅行代金も値上げに向かう方向ということなので、上期は予断を許さない状況である。

【企業動向関連】

- 海外情勢や設備投資の先行きに対する懸念の声がある。

□	一般機械器具製造業(営業担当)	自動車向けに関しては設備投資の中止や延期が続いており、明るいニュースがない。
□	電気機械器具製造業(企画担当)	現時点の受注状況は悪くないが、年度が替わった後については不透明である。英国のEU離脱、米中関係など不安要素もある。
▲	化学工業(人事担当)	景気が悪くなる要因は、国外の要因である。米中関係、英国のEU脱退や中東情勢等がある。もしも米中が良い形で合意できれば景気は上向くかもしれないが、恐らくその可能性は低く、今後、景気は後退局面に入っていくかと思う。

【雇用関連】

- 人手不足の状況が続いており、人件費の上昇により企業の負担が増えている。

□	民間職業紹介機関(営業担当)	4月は転職希望者が停滞する時期でもあり、5月のゴールデンウィーク明け以降に、登録者の動きが再度活性化してくる見込みである。
▲	人材派遣会社(営業担当)	求職者は、より条件の良い会社への流動化が進んでいる。企業は、給与改定や交通費支給等をせざるを得ないため、人件費が高騰し、体力のある企業と人件費を抑制せざるを得ない企業とでは採用充足率に格差が生じている。

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
 - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の3項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1)(2)については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の5段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じてDIを算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DIは50となるため、DI=50が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の4県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。